

昭和の名作
鑑賞ポケットガイド

—入門編—



さ えき ゆう ぞう じ が ぞう
佐伯祐三 《自画像》

1923年頃 53×45.5cm

光と影

この人にあたっている光はどっちの方向から

照らされているのでしょうか？

それは太陽の光？ 蛍光灯の光？

それとも裸電球の光でしょうか？

近くにいる友だちの顔も目をほそめて

ボーッと見てみよう。

外のまわりの風景も目を細めて見てください。

わたしたちの身のまわりは光でいっぱい。



佐伯祐三《自画像》

よこ やまじゆんの すけ ふ じん ぞう
横山潤之助《婦人像》

制作年不詳 45.7×37.7cm

動き

髪の毛の黒い形の曲線

着物の黒い形の曲線

着物のひっかいたような曲線

まゆげのゆるやかな曲線

右側の壁の曲線

みんなぐいぐいぐいと力強く似たような曲線です。

この女の人はどうな性格の人でしょう？



横山潤之助《婦人像》

さと み かつ ぞう はな せい ぶつ
里見勝蔵 《花のある静物》

1931-1932年 90.7×60.8cm

物と物の関係

目をよく動かして

机の上ののっている物の形を

じっくりと比べて見てみましょう。

それぞれ特徴がありますね。

ガラスの器^{うつわ}はキュッと冷たい感じ

お花はモヤモヤと柔らかな感じ

白いお椀^{わん}はシュッと音がするよう。

テーブルクロスの水玉模様はなんだか楽しそう。

食器たちがまるで会話をしているみたいです。

どんな話をしているのでしょうか？



里見勝蔵《花のある静物》

まつ もとしゆん すけ はし とうきょう えき うら
松本竣介 《橋(東京駅裏)》

1941年 45.5×61cm

絵の表面

絵の表面を近づいてよく見てみると

いろいろなデコボコがあります。

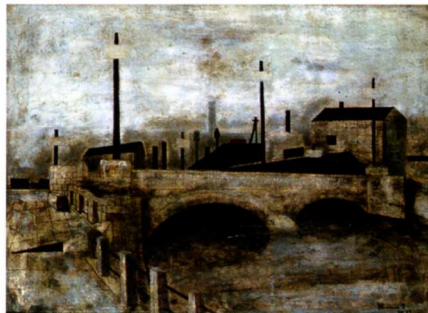
ツルツルと平らなところもあります。

絵のいろいろな部分のでこぼこを

よく観察してみましょう。

近づいて見たときと離れて見たときでは

でこぼこの感じもまた違って見えます。



松本竣介《橋(東京駅裏)》

むら い まさ なり てん し
村井正誠 《天使とトビア》 1950/51年 115.9×89.7cm

線と面

まずは黒い線だけを見てみましょう。

次に丸や長方形の色の面だけを見てください。

今度は黒い線と色の面を同時に見てみましょう。

絵はいろいろな形がかさなりあってできています。

かさなりあうほど絵は複雑になってゆきます。



村井正誠 《天使とトビア》

